

近畿大学 教育論叢

The Research Journal of the Teacher Education Department
Kindai University

第33卷第1号



2021

■ 近畿大学教職教育部 ■

近畿大学教育論叢

第三十三卷第一号

令和三年(二〇二一)九月

近畿大学教職教育部

 近畿大学

目 次

論 文

道徳教育の存在論的地平

Ontological Horizon in Moral Education ……光田 尚美 (MITSUDA Naomi) … 1

ペア顕微鏡観察が観察者にもたらす心理的な影響

—大学生を対象とした花粉・胞子化石の分類を例に—

Psychological Effects of Paired Microscopic Observation on Pollen and Spore Fossils
by University Students ……吉川 武憲 (YOSHIKAWA Takenori) … 19

Google Classroom を活用した遠隔授業の設計と実践

Design and Practice of Online Classes with Google Classroom
……………高橋 朋子 (TAKAHASHI Tomoko) … 35

英語に未来時制はあるのか

—中高の時制とアスペクト指導における提言—

Is There a Future Tense in English ?
—Suggestions for Teaching Tense and Aspect at Junior and
Senior High School in Japan—……………大村 吉弘 (OMURA Yoshihiro) … 53

大学生の確率学習指導についての自信に関する要因分析

Factor analysis of confidence in college student for teaching probability
……………西仲 則博 (NISHINAKA Norihiro) … 65

協同学習の位置づけに関する考察

—大学教職課程における協働的な学習の実践を通して—

Consideration on the positioning of Cooperative learning:

Practice of Learning Together in the University Teaching Course

.....上藤伊知郎 (UEFUJI Ichiro).... 77

計画力ならびに遂行力を培う教育内容の視点

Perspectives on Educational Contents to Cultivate Plannability and Executionability

.....頭師 暢秀 (ZUSHI Nobuhide).... 109

報告書

「物体が見える」という概念をつかませるための教材開発とその成果

—中学校理科単元「光の世界」の実践から—

Development of teaching materials and results to help people understand

the concept of “seeing objects”

—Secondary Class Unit “World of Light”—

.....奥田 雅史・吉川 武憲 (OKUDA Masashi and YOSHIKAWA Takenori).... 127

「“オール近大” 新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト」における

アンケートならびにインタビュー調査の結果から

—大学生が直面した困難の分析と大学による支援の検討—

“All-Kindai University Support Project Against COVID-19”

From the Results of Questionnaires and Interview Surveys

—Analysis of Difficulties that University Student Facing

and Examination of Support by University —

.....熊本 理抄 (KUMAMOTO Risa).... 139

「“オール近大” 新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト」における
アンケートならびにインタビュー調査の結果から
—留学生が抱えた困難と課題—
“All-Kindai University Support Project Against COVID-19”
From the Results of Questionnaires and Interview Surveys
—The Impact of COVID-19 on International Students—
……………高橋 朋子 (TAKAHASHI Tomoko)… 173

「“オール近大” 新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト」における
アンケート並びにインタビュー調査の結果から
—心身の健康と教育実習に関する報告—
“All-Kindai University Support Project Against COVID-19”
From the Results of Questionnaires and Interview Surveys:
A Report on Physical and Mental Health and Teacher Training Practicums
……………向後 礼子 (KOGO Reiko)… 197

編集発行内規

投稿要領

編集後記

『近畿大学教育論叢』編集発行内規

第1条 近畿大学教育論叢（以下「本誌」という）は、教職教育部が年1回以上発行する。

第2条 本誌の編集、発行の任にあたるため編集委員会を置く。

2. 編集委員会は、委員長1名、委員若干名をもって構成する。
3. 委員長、委員は、教職教育部教授会の承認を経て、教職教育部長が委嘱する。

第3条 投稿者（執筆者）は、原則として本学園教職員に限る。但し、編集委員会の議を経て教職教育部長により投稿を認められた者はこの限りではない。

2. 投稿者は、別に定める「投稿要領」に従って、原稿を作成することとする。

第4条 原稿の校閲および採否の決定は、編集委員会が行う。

2. 編集委員会は、投稿原稿の本誌掲載の採否を判断するため、審査を行う。
3. 編集委員会は、投稿者に対し、上記審査に基づき、内容の修正等を求めることができる。

第5条 編集発行内規の改正に関しては、編集委員会の議を経て、教職教育部教授会で決定する。

第6条 当該原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。

2. 著作者および共著者は、当該原稿に係わる複製権、公衆送信権および譲渡権の許諾を近畿大学に与えるものとする。
3. 近畿大学が当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権および複製権の許諾を与えるものとする。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

『近畿大学教育論叢』

(The Research Journal of the Teacher Education Department, Kindai University)

投稿要領

1. 原稿は未発表のものに限る。投稿の区分は、原著論文、研究報告、書評、その他とする。
 - (1) 原著論文は、理論的または実証的な独創性のある研究、および独創的または有効性のある教育実践研究、教材・教具・教育システム等の開発研究とし、論文として完結した体裁を整えているものとする。
 - (2) 研究報告は、教育を扱う研究論文に準じたものとする。
 - (3) 書評は、教育に関する図書の紹介や批評とする。
 - (4) その他、編集委員会が認めた区分を適宜設けることができる。
2. 原稿は原則として、ワープロを使用して作成、提出するものとする。
3. 原稿締め切り時に、原稿のコピー（2部）とデータおよび投稿票兼誓約書を提出する。校閲後、掲載が決定した論文については、原稿コピー（1部）と、訂正したデータをメールで編集委員会に提出する。
4. 原稿には表紙を付し、次の事項を記入する。
 - (1) 表題（含む副題） (2) 表題の英文（含む副題） (3) 氏名、所属、職名
 - (4) 連絡先（教職教育部の専任以外の投稿者の場合、メールアドレスを含む）
 - (5) 別刷りの必要部数（規定部数を50部とし、それを超える分は自己負担とする）
 - (6) キーワード（5個以内）
5. 原著論文の場合、用紙はA4判を用い、原則として横書きで原稿を作成する。40字×30行の書式で、原則30枚以内（表紙、本文、文献、図、表を含む）とする。研究報告10枚以内、書評・その他3枚以内とし、原著論文と同様の書式で作成する。

英文の原著論文の場合は、原則としてAPAに準拠し、10,000語以内とする。提出に際しては、専門家の英文校閲を経たことを証明する書類を添付する。
6. 本文中で、活字の大きさ、書体を変える場合は、具体的に指示する。
7. 表、図、写真などは、刷り上がりの大きさを指定し、具体的に指示する。
8. その他原稿の投稿に関しては、編集委員会で協議する。

9. 投稿原稿の執筆は、次の通りに行う。

- (1) 英文の題名、副題、著書名については、すべての単語（前置詞および、冠詞 the などを除く）の最初を大文字にする。
- (2) 英文論文題名の副題は、コロン（:）で分ける。
- (3) 和文の句読点は、（、）（。）を用いる。文献では、コンマ、ピリオドを認める。
- (4) 図は、Figure 1、Figure 2 あるいは、図 1、図 2 とし、表は、Table 1、Table 2 あるいは、表 1、表 2 のように通し番号をつけ、論文内で統一された表記を使用する。
- (5) 必要に応じて大見出し、中見出し、小見出しを用い、その表記は次のようにする。
大見出し 1. 2. ……
中見出し (1)、(2)……
小見出し ①、②……
- (6) 引用文献・資料は、以下のように表記する。なお注について文献を示すことも可能とする。

著者名、発行年、題名、出版社、引用ページ数（頁、ページ、p など）

著者名、発行年、論文名、雑誌名、ページ

令和3年4月1日改訂

編 集 後 記

令和三年度の教育論叢第1号を発行いたします。昨年度と同様、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令され、日常生活や社会生活の変化にまだ不安を抱える日々が続いています。そのような中で、多くの著者の方々から本号にご投稿をいただき感謝しております。

本号へは、論文9本、報告4本の投稿がありましたが、査読の結果、論文7本、報告4本の計11本を掲載させていただきました。本号に掲載させていただいた論文および報告は、それぞれの著者のご研究領域から広い知見や視野を示すものとなっております。また、コロナ禍における学生の生活・学習・精神面における実態について3名の著者から貴重な報告をいただきました。感謝申し上げます。

今後はどのような状態になるのかが予測できない今、私たち研究者にできることは、落ち込み、立ち止まることなく、今後の社会にどのような貢献ができるのかを模索していくことだと思います。今後も、危機を乗り越え、これからどう生きていくのかといった命題を多くの読者に示していただけるような論文・論考のご投稿を、編集委員会一同、心よりお待ちしております。

近畿大学教育論叢編集委員会

山本 智子、下村 隆之、光田 尚美、高橋 朋子

近 畿 大 学 教 育 論 叢 第33巻第1号

令和3年9月20日 印刷

令和3年9月20日 刊行

発行人 近畿大学教職教育部長
戸井田 克己

発行所 近畿大学教職教育部
577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学管理部用度課(出版印刷)
